LD·ADHD通級指導教室 自立活動学習指導案

1 題材名 「分かりやすく 伝えよう」

2 指導の立場

(1) 児童の実態(4年生 男子2名)

本校在籍の4年男児2名である。本教室では、ペア活動を行うことで相手の気持ちや立場を考えながら、望ましいコミュニケーション能力を高める活動を意図的に設けている。

A児は、大きな集団の中ではルールを守って生活することができているが、小集団の中では、自分の話したいことを一方的に話したり、相手が話をしている途中で自分の話をしたりしてしまう姿もみられる。また、自分の思いを中心とした言動も見られる。その要因として、場の状況や相手の思いを理解する力の弱さが考えられる。そのため、相手の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動ができるようにしていきたいと考え、ペア活動においては、相手の気持ちを推し量りながら行動することを大切にしてきている。

B児は、学級遊びに参加したり、近所の仲の良い 友達と遊んだりすることはできるが、自分の世界に 入り込んでしまうことがある。また、友達に嫌なこ とを言われるなどのトラブルが起こると、自分の気 持ちをうまく伝えられず怒ってしまったり、相手に 対して手が出てしまったりすることがあった。その ような行動は、自分の思いを言葉で相手に伝えるこ との苦手さから起こっていると考えられる。ペア活 動では、自分の思いを相手に伝える力を付けていき たいと考えている。

(2) 題材について

発達障がいのある子どもたちは、日常生活の中で 自然にソーシャルスキルを身に付けることが難し い。それは、他者とのコミュニケーションの難しさ や、一般化することが困難なために一度学んだこと を他に応用することの難しさや、社会的認知が困難 なために他者のモデルを取り入れることの難しさ などが関係していると考える。

本題材では、さまざまな活動を通して「相手の立場や気持ちを考える」「相手に分かりやすく伝える」「内容を整理して話す」「情報を整理して考える」などのスキルを身に付けさせていきたいと考えている。

A児については、相手の話を聞いたり、相手を意識して話したりする活動を通して、相手の立場や気持ちを推し量る大切さに気付けるようにしていきたい。また、お互いを気遣いながら活動することが楽しさにつながっていくことも味わってほしいと考えている。

B児については、順序立てて話をしたり、相手を 意識して話をしたりする活動を通して、自分の思い を正しく相手に伝える力を付けていきたい。また、 困ったときには言葉で伝えることで解決していく方 法があることにも気付かせたい。

3 研究内容に関わって

(1)人とのよりよい関わり方ができるスキルを身 に付けるための指導の工夫

児童の課題や学習内容に関することで、2つの 場面絵を用いて違いを見つけさせたり、よりよい 行動を選択肢の中から選ばせたりすることで、ど うしたらよいかを自ら考えることができるように している。また、獲得したスキルについては、短 い言葉で表し掲示することによりいつでも生かす ことができるようにしている。

(2) 学級との連携の工夫

在籍学級の担任と連絡を密にとり合い、学級でトラブルが起こったときには、その事例に関わる内容をタイムリーに指導することもある。どのような行動をとるとうまくいきそうかを考えたり、短い言葉で合言葉を作ったりして、生活に生かすことができるようにしている。

また,一週間ごとに「がんばること」を決め, 担任に評価してもらったことを指導時間のはじめ に子どもに伝えることで自己肯定感を高め,在籍 学級においてよりよい生活を送ることができるよ うにしている。

(3) 家庭との連携の工夫

「チャレンジカード」を通し、家庭での様子や 頑張り、学校での様子を伝え合っている。保護者 に指導の様子を参観してもらったり、指導後の懇 談の時間をとったりすることにより、保護者とA 児との関係が安定し、落ち着いて生活したり、学 習に取り組んだりできるようになってきている。

4 具体的な指導内容

A児

長期指導目標

- ・集中して話を聞くことができる。
- ・思うようにいかないことがあっても、気持ちをコントロールして最後まで仲間と楽しく活動する ことができる。
- ・相手の気持ちを考えた言動をすることができる。

745	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定		情緒の安定に	他者の意図や	感覚や認知の	姿勢と運動・	状況に応じた
さ		関わること	感情の理解に	特性への対応	動作の基本的	コミュニケー
れた		状況の理解と	関すること	に関すること	技能に関する	ションに関す
た項		変化への対応			こと	ること
自		に関すること				

具体的な指導内容本題材での

- ・ペア学習による相互コミュニケーションを通して、自分が話したいことや自分の気持ちを 相手に正しく伝えるために必要な諸能力を身に付ける学習をする。
- ・相手を意識して分かりやすい説明ができるように、カードを使って話す順序や内容を工夫 できるようにする。
- ・相手の表情や行動から相手の気持ちを考えて適切な言動ができるよう, ロールプレイを行う。また, 実際の活動場面で般化できるよう, 段階的に指導する。
- ・相手を意識して話を聞く姿勢を大切にし、できているときに具体的に褒めることで、相手を意識して話を聞こうとする意欲を高める。

B児

長期指導目

標

- ・自分で集中して課題に取り組むことのできる時間を延ばす。
- ・自分の状況や思いを言葉で伝えることができる。

選	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
定		情緒の安定に	自己の理解と	感覚を総合的	姿勢と運動・	状況に応じた
さ		関わること	行動の調整に	に活用した周	動作の基本的	コミュニケー
れた		状況の理解と	関すること	囲の状況の把	技能に関する	ションに関す
た項		変化への対応		握に関するこ	こと	ること
目		に関すること		と		

具体的な指導内容本題材での

・話を最後まで聞くことができるよう,話の流れをあらかじめ把握させ,見通しをもって聞くことができるようにする。

- ・自分が困っている状況や自分の気持ちを言語化で きるよう、ことばのカードを作り、やり取りの場 面で使うことにより、言葉で伝えて解決できるよ うにする。
- ・相手を意識してわかりやすい説明ができるように, メモを作成し,話す順序や内容を工夫できるよう にする。

5 指導の流れ

	時	学習活動	A児○ねらい・評価基準	B児○ねらい・評価基準
=	1	夏休みの思い出を伝える準備をしよう・ペアの子に伝えたいできごとを整理する。・ペアを意識して、発表の練習をすることができる・自分の発表の良さや改善点に気づくことが	A兄○はらい・評価基準○相手を意識してペアの子に伝えることができる。6-(5)・相手に伝わりやすい声の大きさ、体の向きなどを考えてい	○相手にわかりやすいように内 容を整理して話すことができ る。6-(5) ・相手にわかりやすいように 話の内容を整理して話し
		できる。	る。	ている。

2	ペアの子に夏休みの思い出を発表しよう 「夏休みの思い出発表会」 ・発表の仕方や聞き方に気を付けて発表し合う。 ・相手の発表の仕方や聞き方の良さを見つけることができる。	○相手の発表を最後まで聞き,お互いの発表の良さをみつけることができる。2-(1)5-(1)・相手の発表を最後まで聞き,良さを見つけている。	○相手の方を見て最後まで発表を聞き、感想を言うことができる。5-(1)3-(4)・相手の方を見て最後まで発表を聞き、感想を言おうとしている。
3	クイズ作りをしよう スリーヒントクイズ作り ・1つの文を短くする。 ・相手のことを考えて、3 つのヒントで分か るクイズを作る。	○クイズ作りを通して、相手を 意識して分かりやすく伝え る方法を考えることができ る。6—(5) ・相手に伝えることを意識して ヒントを考えようとしてい る。	○どんなヒントがあると相 手が分かりやすいかを考 えてクイズを作ることが できる。6-(5) ・相手に分かりやすいヒント を考えようとしている。
4	スリーヒントクイズ大会をしよう 「スリーヒントクイズ大会」 ・最後まで問題を聞く。 ・手をあげて答えを言う。 ・相手のクイズの良さを見つける。	○相手の問題を最後まで聞いて答えることができる。 3-(4)・相手の問題を最後まで聞こうとしている。	○相手の問題を最後まで聞いて答えることができる。 3-(4)・相手の問題を最後まで聞こうとしている。
5	ぶつからないでゲームをしよう「ぶつからないでゲーム」・目隠しをした相手に具体的な指示を出して離れたところに置いてあるものを取ってくる。・具体的な指示の良さを見つける。	○ペアの子が目的の場所に行けるように、相手の立場に立って、正確に情報を伝えることができる。 4 - (5)・相手の立場に立って情報を伝えようとしている。	○相手の動きを見ながら、相手に分かりやすいように情報を伝えることができる。6-(5)・相手の動きを見ながら情報を伝えようとしている。
6	質問ゲームをしよう・質問をする時のマナーを考える。「私はだれでしょう (動物)」・どんな質問をするといいのか考える。・大きさ・色 ・食べ物・住んでいるところ	○質問で得られた情報を整理 して考えをまとめることが できる。2-(3)・質問で得られた情報をメモに とることで、整理しながら考 えをまとめている。	○相手に応じた言葉を使って話しかけることができる。6-(5)・相手に応じて「○○さん」「すみません」などの言葉を言ってから話しかけることができる。
7	ことばでコピーしよう①「ことばでコピー」・見本を言葉で説明して、相手に同じものを作ってもらう。・図形や線の名前や位置を表す言葉を確認する。	○相手に言われたことを図形 や線を表す言葉に気を付け ながら正しく表すことがで きる。4-(5)・相手に言われたことを正しく 表そうとしている。	○図形や線の名前や位置を表す 言葉を正しく使って、相手に 分かりやすいように情報を伝 えることができる。6 - (5) ・相手に分かりやすいように 伝えようとしている。
8 (本時)	 ことばでコピーしよう② 「ことばでコピー」 ・見本を言葉で説明して、相手に同じ物を作ってもらう。 ・困ったときには、相談して解決する。 ・困っている相手の気持ちを考えて、一緒に解決しようとする。 	○仲間が困っている様子に気付くことができる。3-(2)・言葉や表情から相手の困っている様子に気付くことができている。	○困ったときに、仲間や先生に相談して解決することができる。3-(3)・困ったときに、仲間に相談しながら問題を解決しようとしている。

6 本時のねらい

 A児 (4年 男)	・相手の言葉や表情に着目し、困っている様子に気付くことができる。3-(2)
B児 (4年 男)	・困ったときに、仲間や先生に相談して解決することができる。3-(3)

7 本時の展開

	学習内容	学 習 活 動	◎評価 ☆指導・援助	指導・援助
	于自己任.	A児	B児	1日等 1反功
見通しを、	 活動内容を知る。 週のめあての振り返りをする。 ミニゲームをする。 ジェスチャーゲームをする。 なかま活動をする。 取ったことが起きたときどのように解決したらよいか考える。 	・黙って活動内容を書き写し、鉛筆を置いて待つ。 ・週のめあての振り返りをする。 ・先生やお家の方からの言葉を読む。 ・相手の表情や様子をよく見て考えることができる。 ☆イラストを使って具体的な場面を想定し易くする。 ☆いくつかの選択肢を用意し、良い解決方法とそ の理由を考えることができるようにする。 ☆困っている子の様子に気付くには、言葉や表情	・黙って活動内容を書き写し、鉛筆を置いて待つ。 ・週のめあての振り返りをする。 ・先生やお家の方からの言葉を読む。 ・相手に伝わるように表情や様子を工夫することができる。 ☆イラストを使って具体的な場面を想定し易くする。 ☆いくつかの選択肢を用意し、良い解決方法とその理由を考えることができるようにする。	 ・手遊びをしないで、話を最後まで聞くことを意識できるように聞き方を掲示しておく。 ・ミニゲームを通して、お互いの様子をよく見て考えられるようにする。
もつ	②『ことばでコピー』のルールを確認する。③「なかま活動」のめあてを確認する。	に着目することが大切だと考えることができるようにする。 ・言葉や表情に着目すると相手の困っている様子に気付くことができることを理解する。 相手が困っている様子に気付く。	・困ったことが起きたら、相談するという方法があることを理解する。困ったことがあったら、相談する。	
活	④『ことばでコピー』をする。・相手に指示がうまく伝わっていない時は、教師が伝わっていな。	・正確に伝えられた時は、指示の良さを具体的に褒める。 ☆ B児が指示を出せずに困っている状態に気付いていないときは、B児の表情や様子を見るよう声をかける。	・正確に伝えられた時は、指示の良さを具体的に褒める。 ☆指示が出せずに困ったときは、困っている状況の伝え方や相談の仕方が分かるように黒板に掲示しておく。	・ゲームのやり方,活動内容が分 かるように掲示しておく。
動	いことを指摘する。	→ B児の立場に立ち、一緒に考えられた時には、 そのよさを具体的に示して価値付ける。	☆ヒントを参考にして自分から相談ができたと きにはそのよさを具体的に示して価値付ける。	
すって		◎相手の言葉や表情に着目し、困っている様子に 気付くことができる。〈3-(2)〉	◎困ったときに、仲間や先生に相談して解決する ことができる。〈3 - (3)〉	・指示を出す子が困っていたら、指示 を聞く子が具体的に質問してあげ
る		・がんばったこと、相手の良かったことを、発表 する。	・がんばったこと、相手の良かったことを、発表 する。	るなどの協力し合う方法も見つけることができるようにする。
振り返る	5. 本時の活動を振り返る。	 ・活動を振り返り、がんばったことを書く。 相手が困っている様子に気づいて一緒に考えることができた。困っている子がいたら、協力して解決できると嬉しいね。 ・在籍学級でがんばることを決める。 	 ・活動を振り返り、がんばったことを書く。 はじめは説明できなくて困ったけど、相談したら、うまくいった。困ったときには、相談するといい方法を見つけることができるんだね。 ・在籍学級でがんばることを決める。 	
	W			・本時の取り組みのよさを認め評価する。

【ポイント①】(指導形態の工夫)

ペア及びグループ学習は、個々のニーズに応じて意図的に設定する。ペア及びグ ループ学習を行うことにより、個別学習で身に付けたスキルを使って解決できるよ うな学習を行うことができるよう、メンバーの人選について検討する必要がある。

【ポイント②】(ねらいの焦点化)

児童の実態をふまえ、「困っている状況が分かるようにしたい。」のか 「困っている気持ちが分かるようにしたい。」のか「困っていることの 解決法を考えるようにしたい。」のかなど具体的に考え、焦点化する。

6 本時のねらい

A児 (4年 男) ・相手の言葉や表情に着目し、困っている様子に気付くことができる。3-(2) B児 (4年 男) ・困ったときに、仲間や先生に相談して解決することができる。3-(3)

るようにする。

う声をかける。

学習活動

A児

相手の表情や様子をよく見て考えることができる。

☆いくつかの選択肢を用意し、良い解決方法とそ

☆困っている子の様子に気付くには, 言葉や表情

に着目することが大切だと考えることができ

・言葉や表情に着目すると相手の困っている様子 に気付くことができることを理解する。

正確に伝えられた時は、指示の良さを具体的に褒める

☆B児が指示を出せずに困っている状態に気付

いていないときは、B児の表情や様子を見るよ

の理由を考えることができるようにする。

・黙って活動内容を書き写し、鉛筆を置いて待つ。

先生やお家の方からの言葉を読む。

相手が困っている様子に気付く。

7 本時の展開

(意識の流れを 大切にした学習 過程の工夫)

【ポイント③】

ミニゲームは、本 時の内容に関わ った活動を行う ことで、課題意識 が途切れること なく学習できる ようにする。

【ポイント⑤】

互いの様子がより

分かるように,工夫

易くすることもで

きる。

(環境設定)

0

活

学習内容。 1. 活動内容を知る。 2. 週のめあての振り返りを 週のめあての振り返りをする。 3. ミニゲームをする。 ・ジェスチャーゲームをする。 ☆イラストを使って具体的な場面を想定し易くする。

- 4. なかま活動をする。 ①困ったことが起きたと きどのように解決した らよいか考える。
- ②『ことばでコピー』のル ールを確認する。 ③「なかま活動」のめあて
- を確認する。
- ④『ことばでコピー』をす
- 相手に指示がうまく伝わってい いことを指摘する。
- することが大切。 教師の立ち位置 を変えることで、相 5. 本時の活動を振り返る。 手の様子に着目し

ない時は、教師が伝わっていな

- ☆B児の立場に立ち、一緒に考えられた時には、 そのよさを具体的に示して価値付ける。 ◎相手の言葉や表情に着目し、困っている様子に
 - 気付くことができる。(3-(2)) ・がんばったこと、相手の良かったことを、発表
 - 活動を振り返り、がんばったことを書く。

相手が困っている様子に気づいて一緒に考え ることができた。困っている子がいたら、協力し て解決できると嬉しいね。

・在籍学級でがんばることを決める。

- ◎評価 ☆指導·援助 B児
- ・黙って活動内容を書き写し、鉛筆を置いて待つ。
- 週のめあての振り返りをする。 先生やお家の方からの言葉を読む。
- ・相手に伝わるように表情や様子を工夫すること ができる。

☆イラストを使って具体的な場面を想定し易くする。 ☆いくつかの選択肢を用意し、良い解決方法とそ の理由を考えることができるようにする。

・困ったことが起きたら、相談するという方法が あることを理解する。

とがあったら、相談する。

- 正確に伝えられた時は、指示の良さを具体的に褒める。 ☆指示が出せずに困ったときは、困っている状況 の伝え方や相談の仕方が分かるように黒板に 掲示しておく。
- ☆ヒントを参考にして自分から相談ができたと きにはそのよさを具体的に示して価値付ける。 ◎困ったときに、仲間や先生に相談して解決する
- ことができる。(3-(3)) ・がんばったこと、相手の良かったことを、発表
- 活動を振り返り、がんばったことを書く。

はじめは説明できなくて困ったけど、相談した ら、うまくいった。困ったときには、相談すると いい方法を見つけることができるんだね。

・在籍学級でがんばることを決める。

- 指導·援助
- 手遊びをしないで、話を最後まで聞 くことを意識できるように聞き方 を掲示しておく。
- ・ミニゲームを通して、お互いの 様子をよく見て考えられるよ うにする。

【ポイント④】

(課題の明確化)

前時までの活動を踏まえて児童が 自分の課題を把握していると,本時 の課題が明確になり、目的意識をも った主体的な活動につながる。

ゲームのやり方、 かるように掲示しておく。

指示を出す子が困っていたら、指示 を聞く子が具体的に質問してあげ るなどの協力し合う方法も見つけ ることができるようにする。

本時の取り組みのよさを認め評価する。

【ポイント⑥】

(単位時間の中で の高まりを生み出 す工夫)

ゲームの1回目は. 教師の助言を受け ながら解決する,2 回目は,教師の助言 なしで行ってから 振り返る, 3回目 は,自分の力で解決 できるようにする. といったように,段 階的に指導を行う。

【ポイント®】(さらに定着を図るための工夫)

日常生活への般化につなげるために、主な活動の後にもミニゲームなどを取り入れ、身に付けたスキルの適応範囲を広げる。

8 環境設定図

